唄が終わった途端

フロド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
唄が終わった途端

【Ｎコード】
Ｎ６４９７Ｂ

【作者名】
フロド

【あらすじ】
梅雨の時期に３人が起こした人生の起点…

都会の駅

２００７年
７月２日～峠駅前～

「ねぇ、本当にやるの？」
夜１１時になっても人がたくさんいる峠駅で、か弱い男の子の声が横にいる不安そうな顔をしている男に聞いた。
「あ、当たり前だろ。ここで逃げたら去年と同じだ」
その言葉に男の子は静かに頷き、その言葉を言った男は覚悟を決めたような顔になった。
「…うん。そうだね。僕たちは変わったんだよね」
「ああ。変わったんだ…よし、準備するぞ」それを合図に２人は背中に抱えていたギターを取り出して弾く準備を整えた。
「よし、いつものをやろう」
そう男が言うと２人はグーの拳を合わせ
「弱気な僕、広志」
「強気な俺、大輔」
「……」
２人の間に沈黙が流れた。それは短い間。あと一人、今みたいな言葉が言えるくらいの間。
「よし！」
「よし！」
２人は拳を離し、自分のギターの弦に触り深呼吸をした。そして、２人のギターが、人の声でうるさい駅前で静かに音を奏で始めた。

里華　1

２００６年
６月２９日～霞島山高校～

午後５時の理科室。
外は雨がザーザー降っていて、朝から今に至るまで雲はずっと灰色だった。ちょっとだけ時間の感覚が狂っているような不思議な感じがする。理科室は普通の教室より少し違う。８人掛けのデカい机がタテ、ヨコに３つずつ、合計９つの机がある。この教室には私しかいないが、もうそろそろ２人のどちらかが来るに違いない。「あれ？里華ちゃん？どうしたの、電気も付けないで」
そう言いながら電気を付けて中に入ってくる男の子がやって来た。今は夏服だからわかりやすいけど、まるで今まで太陽の紫外線を受けたことがないくらい肌が白いくて髪の毛はストレート。私は少しだけパーマがかかってるから、（うらめしぃ～あぁ、違う違う！うらやましぃ～）と毎回会う度に思う。ちょうど眉毛を隠すくらいの長さで下ろしている。その男の子はリュック型の鞄と、ギターケースを持っていた。
「お、さっそく来たね広志。それが聞いてよ！雨がめっちゃ降ってるよ」「…え？誰が見てもわかるけど…」
「もぉ！もうちょっとツッコンでよ！！面白くないなぁ～」
「ああ、ご、ごめん！」こんなやりとりをしながら広志と私は９つある机のちょうど真ん中にある机へ近づき木で出来てる丸い椅子に腰掛けた。
「まったく幼稚園から一緒だっていうのに全然変わってないなぁ君は」
広志は会話を急にやめ、手に持っていたギターケースからギターを

取り出した。私はギターのことはよくわからないけど、どこでも見るような普通のギターだ。広志はギターのチューニングをしながら笑って

「里華ちゃんだって変わってないよ。なんたって里華ちゃんは幼稚園の頃から雨が……」

ガシャーン！！！！！広志が何かを言いかけたところで不意に廊下で誰かがコケた音がした。その証拠にイテテテ…と男の情けない声が今聞こえてきている。

「わりぃ、遅れた！！」

そのイテテテの主は大輔（だいすけ）だった。大輔は身長が高くて、髪の毛は上へ上げている。だけど、上へ上げても違和感のないくらいに短かくて、まるで広志とは正反対だ。大輔は私達の近くに来て座る間に

「いやぁ～なんだってこんな今日はツイてないんだ」と誰に言うまでもなくつぶやきながら椅子を移動させ座った。

大輔が座った時点で私達の部活動は始まる。座る椅子の位置は毎回一緒で、大輔が黒板に背を向けて私は大輔から見て右側、広志は大輔から見て左側と良い具合いにトライアングルが出来るのである。この位置が3人が3人とも落ち着くのだろう。私はというと…つい寝ちゃいそうなくらい落ち着いてしまう。

「今日なんか悪いことでもあったの？」広志は大輔を心配そうな顔をして大輔に聞いた。

「良いの悪いのって聞いてくれよ！朝は寝坊して遅刻、宿題忘れる、昼は急いで来たから弁当忘れる、そしてさっきの見事なこけっぷり…はぁ～」

「は、はは…ま、まあそういう日もあるって。げ、元気だそうよ、ね」

あきらかに落ち込んでいる大輔に広志はなんとか笑って励まそうとしてるけど、果たして本人はそれが苦笑いになっていることを知っているのだろうか。それは広志にしかわからないことである。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6497b/

唄が終わった途端

2010年10月17日02時18分発行